

叱らなければ

がき

できないものは餓鬼である

—師匠・酩酊山人(めいていさんじん)との対話—

(じーわじーわ)

坂根：師匠、今日もまた一段とお元気なようで。

酩酊山人：当たり前ぢゃ。

ワシが元気でなければなんとする。

坂根：相変わらず晴耕雨読で、晩酌ですか？

酩酊山人：もちろんぢゃ。

酒は百葉の長ぢゃよ。

ところで、久しぶりに訪ねてきたところをみると何か悩み事ぢゃな。

坂根：さすが、師匠はお見通しで。

中学校の教師というのもこれでいて…

酩酊山人：白鳥の話かの？

坂根：ちょっと古いですよ、その話。

酩酊山人：そうぢゃのう。

小中青年も去ってしもうたからのう。白鳥の前にたたずみ、ため息をつく青年教師もおらんかのう。

ま、前置きはいいいから早う話をせい。

坂根：悩みというのほかでもない、我がクラス

の生活態度が悪いんですよ。

ちょっとこの学級通信を読んでみてください。

酩酊山人：何ぢゃな、この相変わらず分けのわからん文章は。

おまけに表題が「今日の大魔神」から「でえげっさあ」などというもろ金沢弁にかわつとるぢゃないか。

坂根：私もですね、何かと苦勞してるんです。

いろいろと企画を練ってですね、新しい試みをやつとるわけです。

酩酊山人：当たり前ぢゃ。

それが生きる力というもんぢゃ。

坂根：とにかく、学級の実態を読んでみてください。それからまたご意見を。

酩酊山人：ふむふむ。

ま、読むからしばらく待つんぢゃな。

(この間、約3分)

酩酊山人：うーん、やるもんぢゃわい。

(おーしつくつく)

坂根：そんなほめるようなこと言わないでくださいよ。

さらに、このあとも直ってない。

酩酊山人：うーん、たいしたもんじゃわい。

坂根：まあ、みんながみんなどうしようもないということではありません。

掃除をいつもしっかりやっている子も知っています。

まじめに勉強している子も知っています。

いつでもベルが鳴ったら座って学習の準備をする子も知っています。

しかし、全体としてみると、落ち着きはないし、ということは、一生懸命やろうという子に対しては迷惑なわけです。

そして、まじめにやる子がバカをみるという、社会としては最もよくないあり方へと進んでいく、あるいはそういう考え方になっていくわけです。

そういう人間は育てたくないのですよ。

酩酊山人：なるほどな。

なかなか根性のすわつとるクラスぢゃわい。

坂根：で、このあとどうしたらいいもんでしょう。

無法地帯になることは避けたいのですが。

酩酊山人：ま、実態は、ひどいようぢゃな。

はっきり言って、担任の指導が悪い。

坂根：そんな、ズバリ言わないでくださいよ。

どうしたらいいか困っているんですから。

酩酊山人：親御さんは我が子の実体をご存じなのかな。

坂根：そりゃ、学級通信が届いていれば知っているでしょう。

しかし、肝心の子どものところには届いていないというのが、だいたいの実態ですからね。教員やってるといつも思いますよ。別にどうでもいいところにはしっかり届いてて、読んでほしい家には届かない。あつという間に掃除時間に床に落ちてますからね。

酩酊山人：わっはっは。

それも担任の指導が悪いのぢゃ。

だが、基本的に、親がいくらこのような実態を知ったからといって、変わっていくのは

本人だからな。

本人が考えて、行動を変えなければどうしようもないということぢゃ。

坂根：どうしようもないとிட்டって、師匠！

それを相談にきたんですよ。

どうしたらいいのか。

酩酊山人：いくら師匠でもできることとできないことがあるぞ。

坂根：で、叱ったり、叩いたりするのは簡単なんですけどね。

酩酊山人：そうぢゃ。

ワシがいつも言っておるぢゃろ。それは簡単な方法だ。

簡単であると同時に、結局は効き目のない方法ぢゃ。

坂根：そして、いつもおっしゃってますよね。

『叱らなければできないものは餓鬼である。叩かなければできないものは畜生である。』と。

酩酊山人：その通りぢゃ。

(ごーん)

たた

叩かなければ

ちくしょう

できないものは畜生である

日常語としての意味ぢゃ。

餓鬼と言え、子どもをいやしんで言うときの言い方ぢゃな。たとえば「ガキ大将」とか言うときの、要するに子どもであるということぢゃ。

畜生と言え、人にやしなわれて生きてるものたぐい、ま動物ぢゃ。「犬畜生」などと言うな。

坂根：人をのしったりするときにも使いますよね。

酩酊山人：♪あんちくしょうにあったら……♪

坂根：いきなり振り付けつきでピンクレディーなんか歌わないでくださいよ師匠。また、腰を痛めますよ。

酩酊山人：やかましい！ワシはまだまだ元気ぢゃ！

坂根：ところで、説明はどうなったんですか？

酩酊山人：そうぢゃった。要するにぢゃな、『叱らなければできないものは餓鬼である。』というのはぢゃな、叱って教えなきやならんようぢゃ、まだまだ子どもだということぢゃ。

中学生にもなれば、自分の過去を振り返れるぢゃろ。その昔はいろいろと叱られたはずぢゃ。そうして成長してきた。しかし、大きくなるにつれて、叱られることが少なくなるはずぢゃ。それが当たり前の成長ぢゃ。

坂根：つまり、この時期にどなられたり、説教されたりというのは、まだまだ子どもだということですね。

酩酊山人：その通りぢゃ。

ま、四十過ぎても叱られる者もおるがの。

(じゃーん)

坂根：でも、餓鬼とか畜生とか中学生にはちょっとわかりにくいので、少し説明してもらえますか？

酩酊山人：ワシに説明しろとは、お主も50年早いぞ。

がしかし、弟子のお主も苦勞しておるよだから、出血大奉仕といくか。

ま、餓鬼とか、畜生とかは知っておるぢゃろ。

坂根：これはもともと仏教用語ですよ。

酩酊山人：そうぢゃな。仏教国の日本では、仏教用語が日常語になったものがたくさんある。

これらもそのうちの一つぢゃ。

坂根：どちらも、六道(ろくどう)の一つですね。

酩酊山人：そうぢゃ。一切の衆生は善悪の業によって六つの迷界に住むという発想ぢゃ。

坂根：天界、人間(にんかん)、修羅(しゅら)、畜生、餓鬼、そしておなじみ地獄の六つですね。

酩酊山人：しかし、ワシが使っているのは、

坂根：いやあ、うちの職場の過去の【びーー】
(検閲にひかかった警告音)も、「嚴重注意」
をもらうくらいですからね。

酩酊山人：そうじゃろ、そうじゃろ。

しかし、しだいに叱られることは少なくな
るはずじゃ。

それを成長という。

坂根：そして、『叩かれなければできないものは
畜生である』と……

酩酊山人：サーカスのライオンのようなものぢや
な。

芸ができなければむちで叩かれる、という
やつぢや。

中学生とて、小さい頃には親に叩かれたこ
とがあったろう。それは、小さい頃は餓鬼以
前に畜生であったからぢや。

これまたそうやって成長してきたのぢや。

坂根：じゃ、今中学生にはどうやってわからせる
せるのですか？

酩酊山人：さあて、それぢやよ。叱ったりせず、
叩いたりせず、それでいてしかもわからせる
方法があるかという、なかなかないな。

坂根：それじゃ、せつかく相談に来たかいがない
じゃないですか？

酩酊山人：ま、あるとすれば…

坂根：あるとすれば…

酩酊山人：しつこく言うことぢやな。

坂根：それじゃ、卒業しちゃうじゃないですか。

酩酊山人：卒業してもよいではないか。

それもそいつの人生ぢや。いつかはしっぺ
返しがかかるぞ。いや、近い内に来るかもしれ
ん。

人間は失敗を繰り返す動物ぢやでのう。

大人になっても、叱られているもの、叩か
れているものがあるではないか。そのための
刑務所ぢや。失敗を繰り返すものはたくさん
おるなあ。

坂根：でも受験に失敗するというのはそう簡単に
取り返せる失敗ではありませんよ。

酩酊山人：いや、長い人生、高校ぐらい、いいで
はないか。

(これこそ)

坂根：また、人ごとだと思って、そんな能天気な
ことおっしゃる。

酩酊山人：いやいや、お主もこの能天気なところ
だけは、ワシに似たわい。

うわあつ、はつ、はつ。

坂根：しかし、このクラスはこのままでよいので
しょうか？

酩酊山人：良いとは言えん。良くないとも言えん。

坂根：そんな禅問答みたいこと言ってどうするん
です。

酩酊山人：生徒の中には、自分はまじめにしてい
るのに、と苦々しく思っているものもおるぢ
やろう。

親御さんでも、先生が甘すぎると思う者も
おるぢやろう。

坂根：そうですねえ。

ときどき、「先生。もっとしからんとだめ
や。」と言う子もいますし、「先生、私ちゃん
とやっとなるやろ。」と殊勝なことを言う子も
いますね。

地獄は壁一重

酩酊山人：先生が優しいというのはほめ言葉ぢやないぞよ。

それは裏を返せば、もっと厳しくしろということぢや。

坂根：しかし、性格というものもありますからねえ。

酩酊山人：だから、お主は修行が足りんのぢや。まだまだプロではないと見た。

坂根：ではどんな修行をすればよいと……

酩酊山人：お説教の技を磨くんぢやな。

他人を納得させるお説教をすることぢや。

坂根：でもそれはすぐには効果はないですよ。

酩酊山人：それでも良いではないか。十年先に気がついて。

坂根：それじゃ遅いんですよ。

十年たてば二十歳を過ぎてます。しょうもないことしたら、刑務所暮らしやってます。

いや、三年後でもそうです。しょうもないことしたら、退学になってます。

すでに、今年三月の卒業生でも【びーー】(検閲にひかかった警告音)です。

ちょっとしたことで、人生は狂うものです。

酩酊山人：そうぢやのう。

そういうことを「地獄は壁一重」と言うのう。

人間は一步道をふみちがえれば、あっという間に罪を犯すものじゃ。

坂根：確かにその通りなのですがね。

これまで四月からも、学校ではいろいろなことがありました。

ほんのわずかな気のゆるみということも多いのですがね。

やった人はよくないことだと重々わかっていることも多いのです。

どうしたらよくなるんでしょうねえ。

酩酊山人：すなわち、一晚寝たら気がつくくらいのお説教をすることぢやな。

坂根：そんなこと、すぐにはできませんよ！

酩酊山人：それがまた修行ぢやて。

坂根：そんな……

さて、君がこの酩酊山人としゃべるとしたら何をしゃべる？

もしも酩酊山人の立場になって、坂根先生に教えるとすれば何を教える？

次の2つのパターンのどちらかを出だしとして採用して、君の考えや、感想を書いてみましょう。

1. 自分が登場して、酩酊山人と話をする

-----：どうも初めまして。

1年6組の-----です。

酩酊山人：おお、よく来たのう。

今日はいったい何の話ぢや？

2. 坂根先生に酩酊山人が対策をいう。

坂根：そんな……何かもう少し、どうしたらいいか教えてくださいよ。

酩酊山人：そうぢやのう

